横浜市立瀬ヶ崎小学校　学校便り
せがさきの風
大きな朝日さしのぼる　希望と愛の花が咲く
世界に窓を開け放つ　ここは横浜瀬ヶ崎小学校
6月号
2023（令和5）年
5月30日発行
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東三丁目２番１号
TEL 781-2446・2447　FAX 701-4892
ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp

みんな待ち望んでいました

学校長　日暮　　勤

初夏の日差しまぶしく、緑が色濃い６月です。学校の紫陽花もすでに多くの花をつけ、学校を彩っています。子どもたちは、それぞれの学年で、学区探検、遠足、宿泊体験学習、修学旅行などの校外学習の準備や実施に向けて活動しています。その学習の目的を意識しながら、教師とともに考え、良い体験、良い学びにしようと意欲的に取り組む前向きな姿が見られることがとても嬉しい毎日です。

私は今年も校外学習で多くの学年を引率します。子どもたちが校外で人とつながる姿、驚きや発見に目を輝かせる姿を楽しみに、共に良い学びと体験をつくりたいと思います。

さて、先日５月２１日（日）に高谷ふれあい広場フェスティバルが開催されました。令和元年度に開催されて以降、今年までコロナ禍で実施できなかったフェスティバルの４年ぶり開催です。来場者約 350 人を超える盛況なイベントは参加者の笑顔が絶えない一日になりました。

高谷町内会の原正美会長は「コロナが５類に移行したタイミングでできてよかったです。参加いただいたたくさんの親子の方々や 90 人を超える関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。」と話されていました。90 人を超える関係者の数が、子どものために動こうとする人たちの心意気を表しています。350 人という参加人数には私も驚きました。令和元年度のコロナ前のフェスティバル参加人数は約 250 人でしたので、今年のフェスティバルはコロナ前より 100 以上多い参加でした。４年ぶりの実施に、以前の記憶が薄れる中、参加者数が減少する心配すらあったこのフェスティバルにこれだけ多くの参加があったのはどうしてでしょう。

私が思い浮かぶのは、このフェスティバルの再開に向けて内容を練り上げた関係者の思いです。「子どもたちのために」とフェスティバルの主旨を熱く語る原会長。購入者が子どもであることを意識して商品の販売料金を決めた実行委員会の方々。一日中、熱いかまどの前でもち米を蒸し続けた消防団の方々。全力で餅をついたり、的当てで子どもにやさしく関わったりした六浦中の先生や生徒たち。わくわくしながら商品を注文する子どもたちに弾む会話と「ありがとう」の声をくださった団体の出店の方々。本校職員も家族と参加したり、普段の学校とは少し違う姿を見せたりしてこのフェスティバルを盛り上げようと協力しました。これら多くの関係者の熱い思いがフェスティバルの成功につながったのだと思います。

また、何よりも関係者、参加者、とりわけ子どもたちがこのような、楽しく安心して過ごせる人と場所と時間をずっと待ち望んでいたことが大きな理由だと思います。

子どもは身近にいる大人の姿を見て生き方を学びます。大人同士や大人と子どもの思いとつながりで今回のフェスティバルを成功させたことは私たち大人の充実感につながる体験でした。そして、子どもたちが、制限のない「笑顔で」「大きな声で」「近い距離で」「あたたかく」過ごせる空間づくりに、大人が全力でつながって取り組む姿は、子どもたちにとっても生き方の学びになったと思います。参加しただれもが安心して豊かな時間をもてた一日になったことと、そこに参加できたことを私はとても嬉しく思います。

夏にはまた、区や町内会等で多くのお祭りが予定されています。これらの行事も３年間分の関わる人たちの思いと力で、素晴らしい催しとして私たちの心を豊かにしてくれるでしょう。

私たちも子どもたちと共に、地域や保護者の皆様とつながりながら、ずっと待ち望んでいた行事を心から楽しみたいと思います。